

第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ1 地域コミュニティが果たしている役割

R6.3.13 A班 鈿持委員、加藤委員、
鈴木委員、遠藤委員

具体的取り組み

- ・夏祭、文化祭、スポーツ大会
- ・伝統行事・子ども老人交流
- ・今地域でやっている事業
(強制はしていない)

意義

- ・「役割」があるという意義、喜び、出会い、機会、生きがい、存在価値
- ・世代を超えた関わり合いがあり、他人事ではないあたたかなつながり
- ・地域コミュニティ活動を通じて得る経験の貴重さ
- ・「自分の地域を大切にしない奴は信用できない」至言
- ・仲間が住んでいる所、仲間と時間をすごせるところ

市の問題

- ・地域が求めているミスマッチ
- ・行政が求めているもの（ズレ）
地域が必要としているもの
- ・コミュニティではなく行政側の在り方に問題
- ・市が表すテーマが抽象的でよくわからない

役割

- ・役割→生きがい 友達、家族を超えたつながり
になっている
- ・伝統、文化の継承 ・課題解決の中心的存在
- ・行政に組み込まれているので自分のために役割
を果たす（ゴミ。配布物） ・住民とのつながり役
- ・住民への幸せ、楽しみの提供
- ・住民の安全・安心な暮らしのサポート
- ・問題が起きた時（熊がでた、雪が大変）一人で無理な
ことを解決する役割
- ・活動を通じて今まで知り得なかったことを経験できた

課題

- ・市として何をめざしているのか見えないことも不活性の原因
- ・住民へのアプローチ不足（紙多し） デジタル移行
- ・市として小さい地域は消えて行くことを示すことも必要
- ・今、お金を求めているのではなく「人」を求めている（助けてくれる人）
- ・移住者のフォロー不足
- ・コミュニティが何をやっているか不明 ・行政用語が抽象的→それが嫌われる理由
- ・新参者にとっては「となりは何をする人ぞ」という感覚
- ・未来事業予算400万円しか使っていない→求めているのはお金でなく人
- ・課題が見える化、詳細化されていない
- ・何のためにイベントをしているのか「見える化」不足
- ・学区と地区では抱える課題が異なる ・学区の約6万人と地区の課題のギャップ

第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ1 地域コミュニティが果たしている役割

R6.3.13 B班 高橋委員、田村委員、市川委員、阿部委員

守り

共 助

- ・ 共助 助け合い ・ 自助 ・ 公助 ・ 共助
- ・ 共同 ・ 共助のかかわりが大切

防 犯

- ・ 近所同士、顔見知りであいさつをするという軽い関係のつながりが地域の「壁に耳、しょうじに目」状態を作る
- ・ 行政が介入しづらい事への対応※不審者など

見守り

- ・ 高齢者の病気や（特に一人暮らし）異変に気づきやすい ※最近みかけない、認知症？など
- ・ 一人暮らしの人との交流、見守り
- ・ 隣近所どうしの見守り、声がけ

攻め

世代間交流ギャップ

- ・ 価値観のちがいはあるもの、年代、性別ごとに分けてみる
- ・ 世代間の価値観のギャップを埋める事←対話が大切
- ・ 行事等を通じた世代間交流 ・ ホタル祭（世代間交流）

行 事

- ・ 夏祭や地域のイベントに子供たちが参加することで地域の愛着の形成（醸成）につながる
- ・ 伝統文化の継承
- ・ レクリエーション等で地域の人と触れ合う
- ・ コロナ禍で変化した懇親、親睦の会のスタイル

人の関係性

- ・ よりよい人間関係の構築を果たしてきた

- ・ 住環境の保全
...草刈り

地域の方向性、ビジョン、組織運営

- ・ 「まち」の方向性を決める事
- ・ コミュニティの必要性を問われれば大いに必要である。共助など地域共同体として組織を取りまとめて来た事多大な成果を上げた
- ・ 人口減少、少子高齢化社会、空家問題等全国規模的諸問題克服（解決）出来なかった事と器量のなさ
- ・ コミュニティの責任者として意見の相違等を取りまとめて来た。一応なりにリーダーシップをとってきた

課 題

- ・ 事業への若年層の参加率の向上課題
- ・ コミュニティ活動の後継者不足（高齢化）
- ・ 我関せずの意識改革が必要

第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

テーマ1 地域コミュニティが果たしている役割 R6.3.13 C班 菅原委員、太谷委員、渡邊委員

コミュニティの役割

- ・ 地域生活のルールづくり
- ・ 行政からの情報伝達
- ・ 生活課題の解決
- ・ 災害時の助け合い
- ・ 困りごとの解決
- ・ 子ども、高齢者の見守り

・ 地域の美化

行事・イベント・事業

- ・ 子どもを巻き込んだイベント、行事をする事によって父兄の参加が多くなるのでは
- ・ 季節の行事 ・ 交流できる場所と機会づくりができるようにしている
- ・ 高齢者の集まりを大事にしたい。予算をつけたりして支援することなどで参加者が増える
- ・ 趣味やサークル ・ 敬老会：集落単位参加しやすいが学年で会えない
- ・ 羽黒・櫛引の敬老会 → 広域単位 ・ 行事への参加：潜在的には要望大 どう引込むか
- ・ 他所から来た人の評判良かった ・ 外国人 発想の違い
- ・ 他の団体で行われている同じような未来創造ミーティングに参加すると面白い。新たな発見がある
- ・ 夏祭り再開 100人（前） → 300人（後）

・ 地域の美化

コロナの影響

- ・ コロナに慣れてしまった ・ 加入率 若者とその上の世代との違い
- ・ 葬儀も簡素化している 家族葬 持ち帰り
- ・ コロナにより大人数で集まる機会が減り、交流できる機会も減った
- ・ コロナが明けてきても数年間何も出来なかった期間があり、参加する気持ちもなくなってしまった
- ・ 活動等の棚おろしができた ・ 懇親会の減。やっても残らない、帰る
- ・ 夏祭り再開 100人（前） → 300人（後）

・ 集落・地域をみても高齢化している。若い人が少ない